

様式第6号（会派用）

政務活動実施報告書

令和 4 年 7 月 19 日

村上市議会議長 様

会派名 市声クラブ

代表者氏名 木村貞雄



当会は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

	経理責任者氏名	本間善和
用務名	森林資源を活用したプレカット事業等の現地視察について	
実施日時	令和 4 年 7 月 13 日 (水) 午前 10 時 00 分～ 12 時 00 分	
用務先	住田町 けせんプレカット事業協同組合	
参加議員名	木村貞雄 山田 勉 本間善和 上村正朗(無会派)	
全体参加者数	4 名	
概要及び所見	※記載欄が不足する場合は別紙に記載すること。 別紙	
備考		



森林資源を活用したプレカット事業等の現地視察について

概要及び所見

岩手県住田町にある「けせんプレカット事業協同組合」は平成5年に設立され、近隣にある80社の林業関係者、工務店等で構成されている組合でした。森林所有者からプレカット工場までが参画することで、山を生かし地域を生かす林業循環システムを築き上げ、高品質で低コストの製品供給を目指しています。

川上から川下まで一貫した生産・流通体制を構築し、木材の調達から加工、建て方までの各工程を総合的に管理する独自の「けせん式・林業循環型システム」に成功しています。

これによりコスト削減や情報の共有化が図られ、高品質で低価格な製品の安定供給を実現しています。

ここからは所見ですが、設立にご尽力された現在の組合理事長である泉田氏のお話に感銘しました。彼の考え方は、林業がこれからの世の中にかに必要か、またそれを維持するためには、どのような考え方で進めなければならないかを力説されていました。

よく耳にする川上から川下までとは川上である森林所有者から始まり木材を伐採運搬する森林組合・素材業者その後には製材工場そして集成材工場やプレカット工場、川下であるハウスメーカー・工務店といった業界が一つの考え方で情報を共有し、コストの削減に取り組むことにより、山林所有者から全ての事業所が最終的には勝ち組になることを目指している。このような連携がとれた仕組みが出来上がっている組織(組合)に驚きを感じました。

このような「緑の森林循環システム」を構築するにあたり、最初に取り組む大切なことは、川下である住宅資材用建材を販売している大手メーカーの理解をいただき、連携することで、全国への販売展開が可能になり、地元の木材の需要が拡大する。そこから始める大切さを教えられました。

組合では、利益が出れば山主への還元はもとより、地元の町や学校へ寄附が続けられると言っていました。また、今後の開拓する4つの新規事業にも驚きを感じました。

1. 国産材によるCLT(直交集成板)の開発に挑戦

鉄筋コンクリートに匹敵する強度を持ちます

2. 余剰資源を活用した農産物の栽培

木くず、バーク等を活用したボイラーからの余剰熱を活用した農産物の生産

3. 水素エネルギーの製造

木質バイオマス発電による水から水素を製造

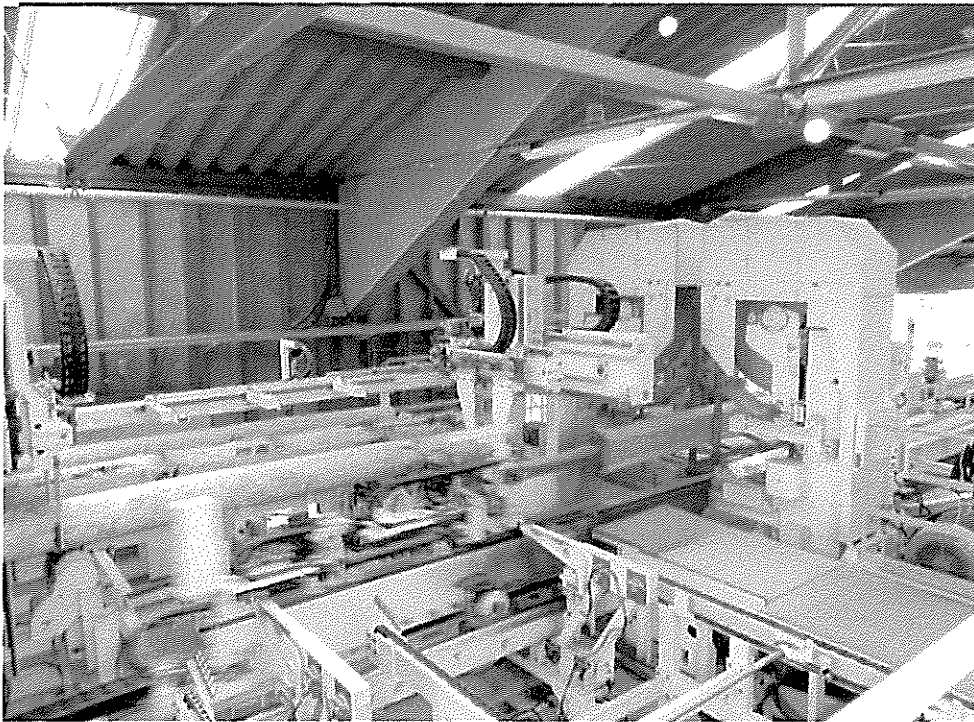
4. セルロースナノファイバーの研究

木材に含まれているセルロースの研究を図り、鉄に変わる強度と軽量な次世代の素材研究

常に、10年、20年、30年先を見据えた林業への取組に感銘しました。



けせんプレカット工場視察状況





けせんプレカット工場視察状況

